

ロマンスカーミュージアム

Romancecar Museum

No. 21-025-2020作成

新築
集会場・飲食

発注者	小田急電鉄株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
デザイン監修	UDS株式会社	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
設計・監理	株式会社フジター級建築士事務所	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		
施工	株式会社フジタ 交通事業部					

小田急沿線の街並みと歴史を継承する鉄道ミュージアム



車両展示室

地域の活性化に寄与する施設内容

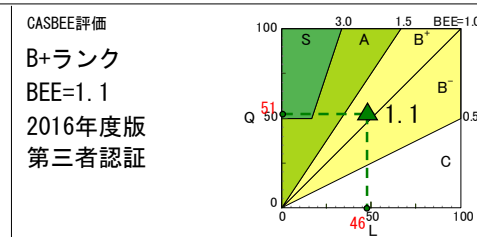
小田急電鉄にとって、開業以来初となる鉄道ミュージアムの建設計画である。小田急線「海老名駅」に隣接し、海老名市のペDESTリアンデッキに接続する構造となっており、小田急電鉄の重要拠点である海老名電車基地とも近接した立地となっている。施設には歴代の特急ロマンスカーの展示、小田急線開業時の車両と歴史ムービー、小田急沿線を再現した鉄道模型が走るジオラマと映像が一体となったジオラマシアターなどの多彩なコンテンツに、カフェやグッズショップ、イベントスペース、子どもが自由に遊べるキッズゾーンや、小田急線を走行する列車や眺望を楽しめる屋外ビュースポットなど、鉄道ファンのみならず、子どもから大人まで多世代が楽しめる施設となる。



キッズゾーン

建物データ	
所在地	神奈川県海老名市
竣工年	2021年
敷地面積	3,934.11㎡
延床面積	4,306.63㎡
構造	鉄骨造
階数	地下0階、地上2階

省エネルギー性能	
LCCO ₂ 削減	7%



小田急沿線全体を

ひとつのまちなみ・景観と捉えたデザイン

新宿から箱根までの小田急沿線をひとつのまちなみ・景観と捉え、小田急電鉄と街との繋がり、沿線の歴史の継承を、施設とコンテンツの双方で表現した。建物デザインについては、小田急電鉄にとって象徴的な存在であり、沿線の情景の一部となっている特急ロマンスカーを感じるデザイン、そして、海老名駅前の特徴的な風景を構築している電車基地との繋がりを感じるデザインにより、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。また積極的な屋上緑化により良好な景観を形成している。施設内のコンテンツとしては、歴史的に貴重な車両の保存と展示、更には新宿から箱根までの小田急沿線のまちなみを再現したジオラマシアターを設けている。



ジオラマシアター

将来展示を想定した計画

1階の車両展示室は、将来を想定し、追加の車両展示に対する空間や荷重のゆとりを持たせ、対応性・更新性を確保した計画としている。



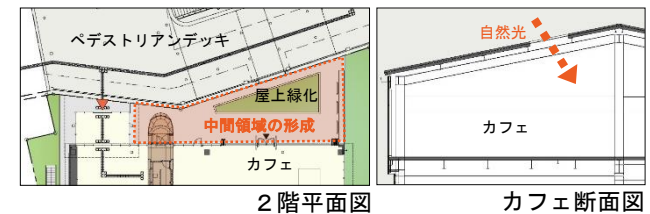
鳥瞰パース

自然光と賑わいを取り込む施設

施設エントランスと駅に繋がるペDESTリアンデッキとの接続には、前面に空地を設け、植栽帯と共に木製のロマンスカーオブジェを設置し、賑わいの中間領域として形成する。カフェにはトップライトを設け、自然光を積極的に取り入れる空間としている。

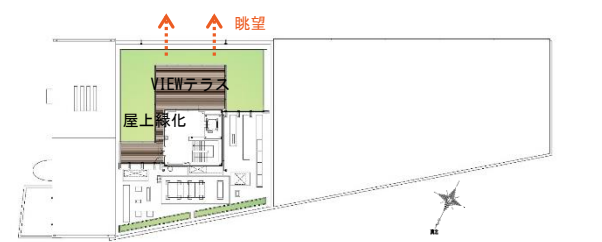


エントランス



屋上緑化

実際の小田急線を走行する列車の眺望を楽しむ事が出来る屋外ビュースポットには屋上緑化を行い、環境にも人にもやさしい建物を実現した。



屋上平面図

設計担当者

統括：種植淳／建築：津村彰、坪井和子、久保田佑介／構造：林賢一、二宮誠司、細谷佳雅／設備：上田勇、杉本雄太郎、岡村あや子



外観パース

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性 (将来展示車両の追加に対する空間・荷重のゆとり)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (外構緑化、建築緑化)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (小田急線沿線の景観と歴史性の継承、新たなシンボルの形成)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (豊かな中間領域の形成)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (トップライトによる自然採光)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (建築緑化)